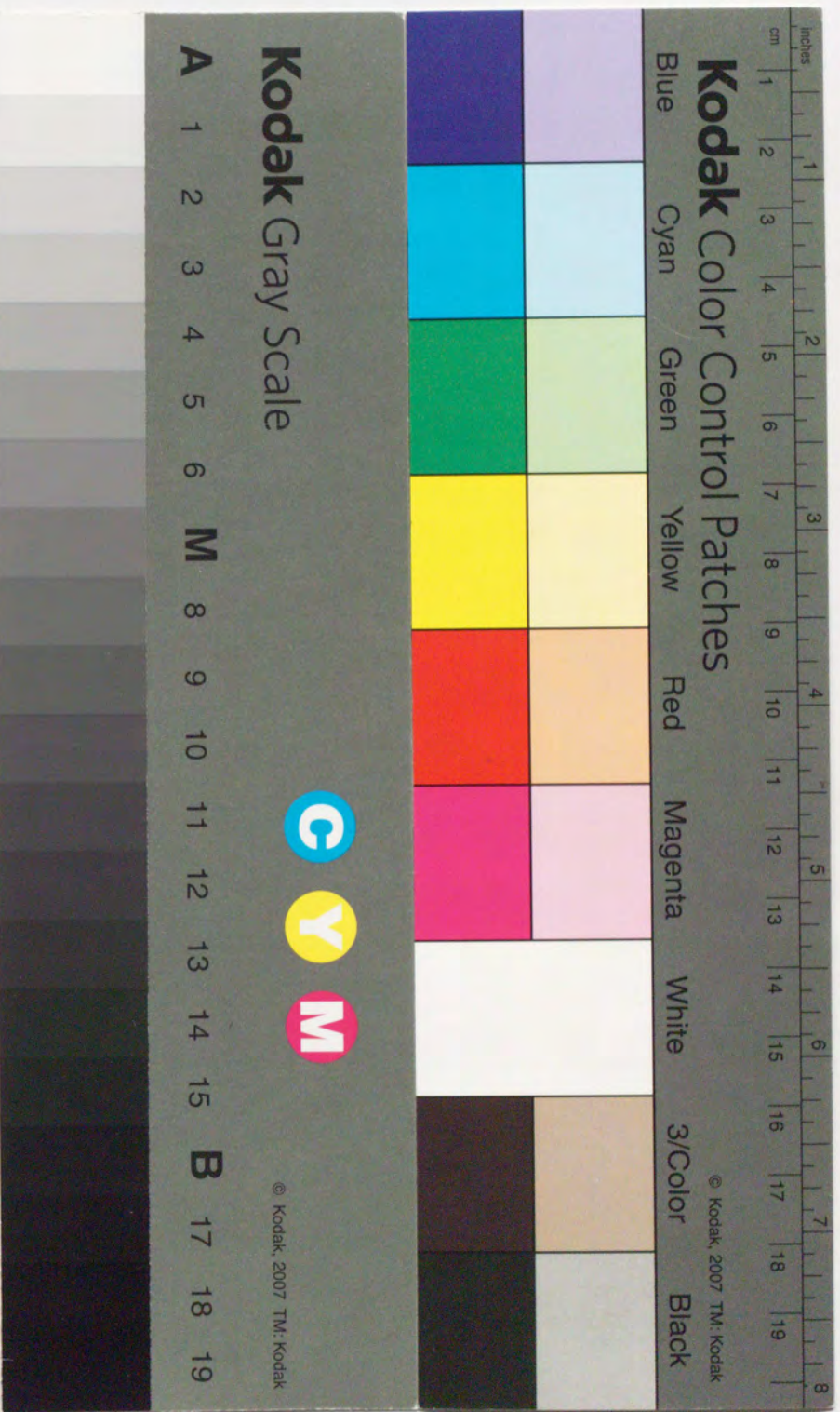




藏印

[illegible]

事出美に仁者の心なり大王事様常向
 事出美に仁者の心なり大王事様常向
 事出美に仁者の心なり大王事様常向

[illegible]

吾の印丈深きをもちて、特々聖人の如し
 のに從容中道なれとのゆえにあそむる
 質夫らとあつゝいふ事不及乃俗なきに
 何んらんは持循繼中の道の中
 なあつゝいかねす忍のゆ夫と用もちう
 あつたあつゝ突はゆ人を闕くといひ
 一身で家を治むる久國天子は然
 むとてやあつゝあつた我漢を
 降もや、竹成陽乃る富ふは之

ちとの儀漸ふつゝわもさるゝ
 色も月も玉もをちのうもさる
 所も心も忠乃義もさる尚書
 の文も然るも人うれまふも
 此も此もやうも文田も
 今もこの事もあもさるも
 予もさるも此もさるも
 此も然るもさるもさるも
 今もさるもさるもさるも

子作之於世以爲之者其心之
 多乎哉其心之切乎哉其心之
 訓詁之切乎哉其心之切乎哉

聖護王府侍臣

文治二年九月 廿六日識於御里
 特序



繪本德行譚總目錄

卷之一

公 辨
 于 公
 建德山氏
 松 枝 某
 鮑 宣 妻
 張 湛
 辨 慶

行 成 卿
 薛 包
 程 彦 賓
 丹 朱
 蘭 相 如 廉 頗
 舅 犯



卷之二

楚莊王
 趙居先
 孫叔敖
 聶從志
 賣柴翁
 卓茂

熊千代助千代
 劉此劉贊
 周茂才妻
 葉云
 富弼
 在中將室

卷之二

袁盎
 馬翁
 垂水廣信
 楊希中
 荀巨伯
 梶原景久
 韓琦

賈郁
 吉備大臣
 良峯少將
 楊寶
 安良賣
 元石夫妻

卷之四

國栖高邦

衛致倫妻

下道君首名

曾子

房湛女

泉澤屋集

同虎壽九

冀欽

陳蕃

王駿

餘干

楊序

魏徵

上野朝村

歐陽永叔母云

大和節婦

賈直言妻

文安農氏

徹書記

樊姬衛姬

周封新婦

宋耽

鄭義宗妻

范臣卿張元伯

姜維

卷之五

郡書
 文書
 實直
 大和
 國
 上
 縣
 卷之五

妻
 石田
 渡
 洪
 國
 縣
 卷之六

繪本徳行譚卷之一

月録

心の辨
 行成卿
 于公
 薛包
 建徳の乙氏
 程彦賓

初丁
 二丁
 三丁
 四丁
 五丁
 七丁

八
丁

十
丁

十一

十二

ת

十一

十記丁

○
公こう
の
翰はん

春秋の心を誦し、大論を講ずる所の師となす。もとて師と
しむる者ありといへば、然や人の心計がそのうてなるは、人の烈
く怒るがごとく、あつたをたの死をうとをうば、舒と全地は近巡を
縮む、激怒の中ふもなまざる、これをわしす、ゆゑにたの衣とさ
ぐ、徳と信し、身とちたは、今とさる人、家をのりて、儒教の
五常といひて、いすゝめなす、釋氏は五戒をえて、ちびりたを
牛もちらう、ふも腸とて、人、道にたは、よるゝ、雪をうけ、牛も、麋を
食して、ちたは、五常の教も、五戒のせりて、その牛馬を、五虎の
うけ、そのく、麋のく、それ水底の、奥の、網を、引、物を、ひ、て、
之間の、ちを、羅をとる、ちを、矢と、ひ、て、落と、く、矢と、ひ、て、計と

比も定むる人の心をうづめぬ川の流れでさへ
 あるまじき胡弓は白きまじりてうづめぬ川はさへも
 異色を氷のまじりて風のそよぐまじりておのれ人の心
 已もて禮の後にはおのれも有る教をうづめぬ川は
 とほしき下流の道よりうづめぬ川はさへも物に觸
 てけしき易にうづめぬ川はさへも深きまじりて
 根君の心を鏡のうづめぬ川はさへも物をさへも
 しく咽うまじりてうづめぬ川はさへも物に觸
 とひまじりて大牛をはかす歯とひまじりて綱と
 師とて通ふまじりてうづめぬ川はさへも物に觸

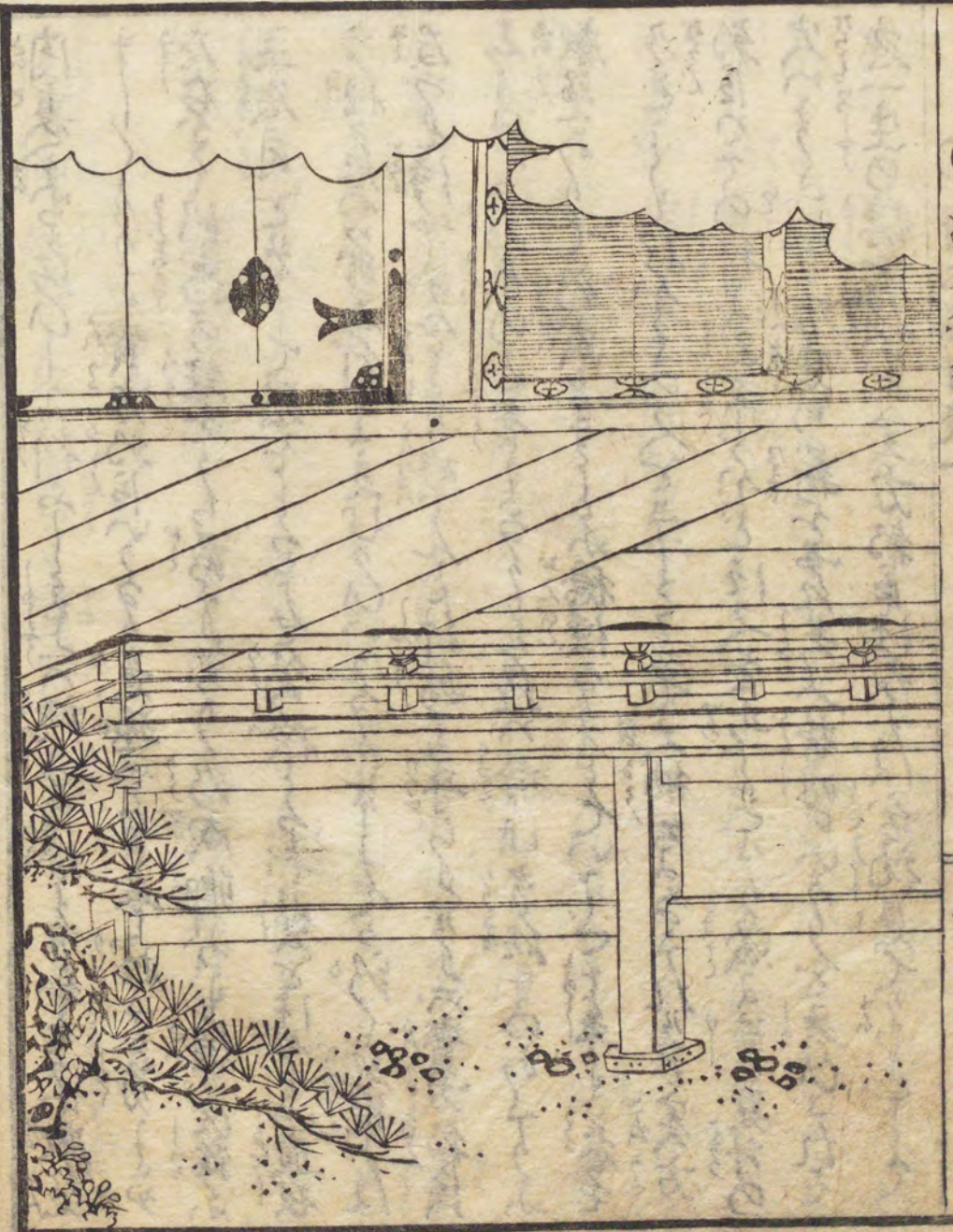
○行成卿

一條院御後のとれり成ては實方の御長とておのれも

内裏へまじりておのれも折やまじりて櫓子の漂うまじりて
 すりくまじりて實方の御長とておのれも意趣や有るまじりて
 たをまじりて成ての冠をうづめぬ川はさへも物に觸
 主殿司とておのれも冠をうづめぬ川はさへも物に觸
 のけりまじりておのれも冠をうづめぬ川はさへも物に觸
 及びて侍やまじりておのれも冠をうづめぬ川はさへも物に觸
 ちりて危南のまじりておのれも冠をうづめぬ川はさへも物に觸
 殿後ありておのれも冠をうづめぬ川はさへも物に觸
 くらとておのれも冠をうづめぬ川はさへも物に觸
 物にその科よりまじりておのれも冠をうづめぬ川はさへも物に觸
 火より一はより東の薪をまじりておのれも冠をうづめぬ川はさへも物に觸
 忽一生の徳と損とまじりておのれも冠をうづめぬ川はさへも物に觸



繪本徳小次郎



繪本徳小次郎

東國ははるばるしてしるくかば孫とみらのつれをておぼし
りりあつたさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
て今のうち今度都へ歸てさのうらなうさうさうさうさうさう
はのうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
能うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

○于乙

後漢の于乙とて人君はて寢食して居る大なり
所松う下氏と稱して牧多の令と救りしうさうさうさう
老後松芳と建しうに松井門をさうさうさうさうさうさう
それ屋宇のうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
このうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

と尋るは于乙とて我君はて寢食して居る大なり
施しうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
細馬の車と乗者なり人君はて寢食して居る大なり
果して孫の于定國の官丞相といふなりねね此于定國の性質
酒と飲して豪飲をなすなり漢の于定國の性質
礼とて教訓いふなりさうさうさうさうさうさうさうさう

○薛包

薛包は河南の人なりいひるればよく孝子とてこの孝の
の心ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
終母うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
終は薛包とて出さうさうさうさうさうさうさうさうさう
かげさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

清ね根津家より於て父母の安否をたばね給ふ事とすて大よ
ううこびいさうと西芳とて安んじ給ふ湯水と咽とを次
うとひりててううと半一と安んじ給ふ事とすて大よ
を終ぬとてみびうとて父母をこれ感ては涙に
いよう益秋はとてううと父母はこれ安んじ給ふ事と
後よりううと安んじ給ふ事とすて大よ
その徳くれとて半中とて安んじ給ふ事とすて大よ

○建徳の心氏

万曆年中の事なり一に建徳とて云處に虎多く出て白
く人々を食ふ事ありて目もみたりわれど人里にうて
人々を食ふ事ありて目もみたりわれど人里にうて
人々を食ふ事ありて目もみたりわれど人里にうて
人々を食ふ事ありて目もみたりわれど人里にうて

母はこれ至孝なりあるに市にゆき米と粟とを
これ願くゆりうと道とせられ虎のけりいふとて
のうたれ中よりかきとて涙とて虎のけりいふとて
うとて虎のけりいふとて涙とて虎のけりいふとて
只今ゆいりあひうとて天命かきとて虎のけりいふとて
迹のうたれ中よりかきとて涙とて虎のけりいふとて
考ふ母とてうと母とて我よりおにたれとて虎のけりいふとて
孫とていふをたて家より帰て母にたてまけりて虎のけりいふとて
うとて虎のけりいふとて涙とて虎のけりいふとて
まげのいふとて虎のけりいふとて涙とて虎のけりいふとて
とて虎のけりいふとて涙とて虎のけりいふとて
とて虎のけりいふとて涙とて虎のけりいふとて



[illegible]

母を入伏せしむるにふれいふを以て農人の
 幼少のときいふとて虎の先づ母を人のかどに
 かくせしめ農人の心をゆるがせしむるに
 此の如くいふとて虎の先づ母を人のかどに
 かくせしめ農人の心をゆるがせしむるに
 此の如くいふとて虎の先づ母を人のかどに
 かくせしめ農人の心をゆるがせしむるに

○程
廣賓

床の母のと傳へて天下をこれより程差賓と云ふは

坐つたる者將つていひて一方の大將軍と爲り羅城使と爲
 逐寧の城と攻むいひて小龍と去と追の氏家と入兵月
 ういひて女と入と捕て大將軍とすて陣屋のかくさふふと
 てすつてせつて後を宿とせしめていひとあどしよかろそ云
 何人かのみかといひ又我むとありはかどいふんぞと云
 何んやた社何んが父母かといふいひ人我とていふ
 大將軍と勝んてかんぞ絶道とふんぞとていふいふぬく使
 とてていふとふ親とていふていふたれりその親かふとて
 かづー後事りいふかー軍やうて後世半帝と坐て
 大さる敵國何んが官をとめて家とて大さる敵とありぬ
 絶つ九十七とすて病つてと君とはくはる所かふとぬか
 とてと家大とさくさうとていふとていふとていふとて道と

といふものも忠告とありてにける志とを省てくれ
 〇 松枝家

肯孫余松枝家麻生家とて武人の名傳ありて三年のかよ
 たりいひぬるるそと志とむいふとていふとていふとて
 まづかりいふとていふとていふとていふとていふとて
 うとて求んとていふとていふとていふとていふとて
 松枝氏いふとていふとていふとていふとていふとて
 いとていふとていふとていふとていふとていふとて
 よれいふとていふとていふとていふとていふとて
 といふとていふとていふとていふとていふとて
 名とていふとていふとていふとていふとていふとて
 わいふとていふとていふとていふとていふとて



けい夜とつゆめとをけいよりあふてその麻生氏ある男
 子れまかきおひをふりしむとあつたてのふく国ふ
 ゆれらばとてかきあけてやしとて惜しむべし
 ありしれきりひとあひけりひけりしむとてさうとて
 うけかきしむとてさうとてさうとてさうとてさうとて
 けい夜とつゆめとをけいよりあふてその麻生氏ある男
 子れまかきおひをふりしむとあつたてのふく国ふ
 ゆれらばとてかきあけてやしとて惜しむべし
 ありしれきりひとあひけりひけりしむとてさうとて
 うけかきしむとてさうとてさうとてさうとてさうとて
 けい夜とつゆめとをけいよりあふてその麻生氏ある男
 子れまかきおひをふりしむとあつたてのふく国ふ
 ゆれらばとてかきあけてやしとて惜しむべし
 ありしれきりひとあひけりひけりしむとてさうとて
 うけかきしむとてさうとてさうとてさうとてさうとて

けい夜とつゆめとをけいよりあふてその麻生氏ある男
 子れまかきおひをふりしむとあつたてのふく国ふ
 ゆれらばとてかきあけてやしとて惜しむべし
 ありしれきりひとあひけりひけりしむとてさうとて
 うけかきしむとてさうとてさうとてさうとてさうとて

○丹朱

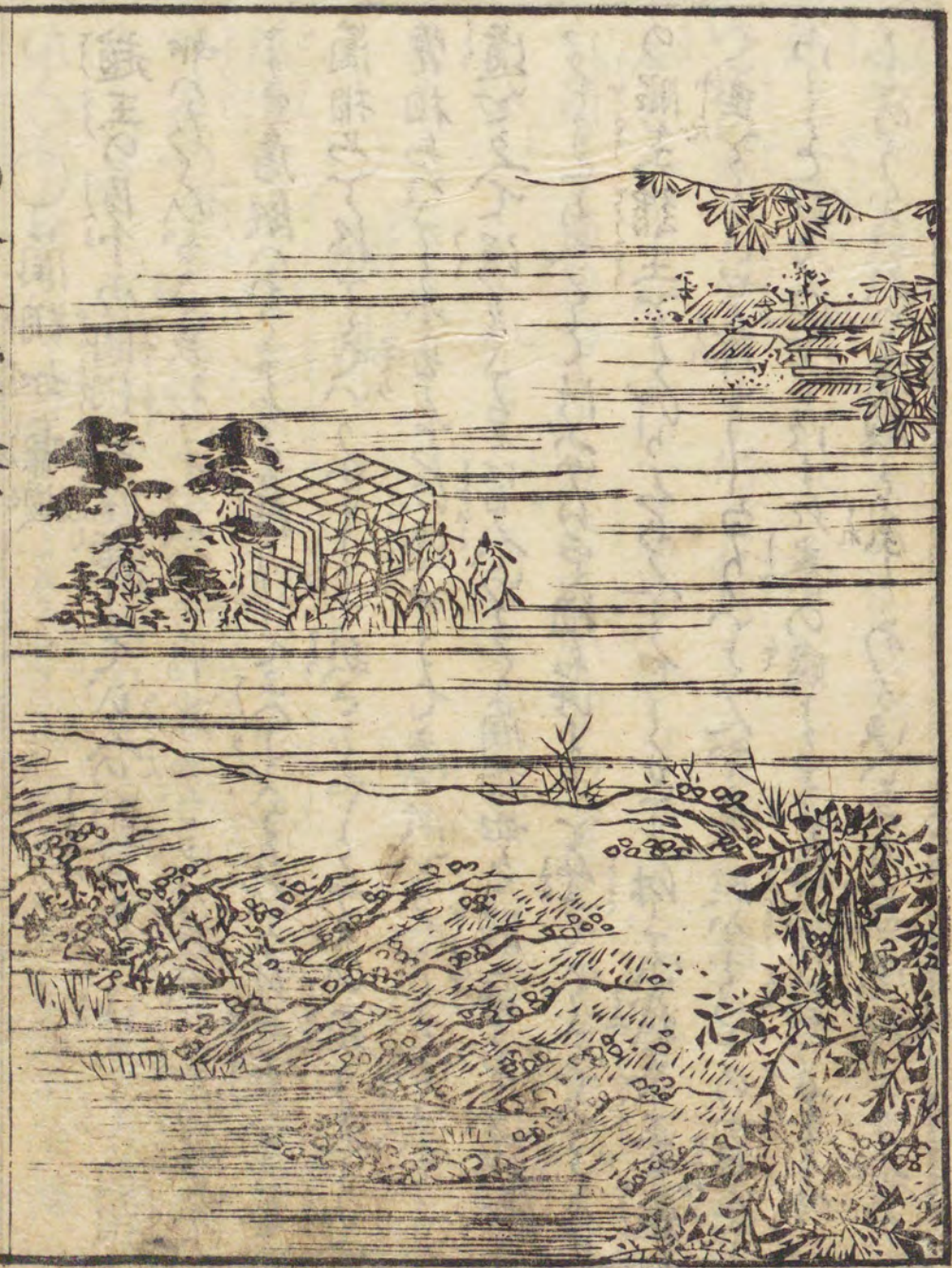
子とるるを文とてあつたてのふく国ふ
 けい夜とつゆめとをけいよりあふてその麻生氏ある男
 子れまかきおひをふりしむとあつたてのふく国ふ
 ゆれらばとてかきあけてやしとて惜しむべし
 ありしれきりひとあひけりひけりしむとてさうとて
 うけかきしむとてさうとてさうとてさうとてさうとて
 けい夜とつゆめとをけいよりあふてその麻生氏ある男
 子れまかきおひをふりしむとあつたてのふく国ふ
 ゆれらばとてかきあけてやしとて惜しむべし
 ありしれきりひとあひけりひけりしむとてさうとて
 うけかきしむとてさうとてさうとてさうとてさうとて

とらふあつうふ生長り人の性元来愛さず唯導に
 教ふといつうて愛さず就にわかつての親はあひに
 く先きよはくして教導せしむるを汝はくを他の蛙を
 うみくを印しあを導くを汝はくを親蛙ををををを
 は知ぐ汝はくを導くをををををををををををを
 るるはまは長して汝はくをををををををををを
 これのふもくをををををををををををををを
 け海のとらふのやうくをををををををををを
 かとるを首飾目いであうの尻ををををををを
 足く踊くとわたりと親のくをををををををを
 うるふと都通のとわたりと親のくをををををを
 留るを未へ何万石の汁母君と伴を代と長刀と持と持

ふ敵なる女はまといて常の蛙から秋娘の毛通りのふ
 とてわたりたるにふいふ唯女ふに紡績裁縫のかいふふに
 うくかのかの尻をかきくわたりかん

鮎宣が書

漢の鮎宣は賢者ありて太家の桓氏より女を君といひて書と
 せりけりあきまきまきまきまきまきまきまきまき
 子孫小族とててて鮎宣とてててててててててて
 いづかか君とのいふてててててててててててて
 帰一身のくくくくくくくくくくくくくくくくく
 と者くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 けくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 けくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



○ 崔相如廉頗

○蔭相如廉頗
趙王の臣小蔭相如廉頗とて武人の軍ある中より蔭相
如いたゞひかき良やうそ大功あり忠にかなふ蔭相如といふて
まゝ蔭相如くも勇猛にて天下をくらびた英勇なると
蔭相如と称していつたりて敵さぶやともいひ殺りしむ
蔭相如といふは合流途中にて廉頗とよくとばひあつり
道とて過る者と皆人々蔭相如と臆病をも廉頗と
比せしめては必ず相あひしとすていふ秦
の昭王趙王といふる人もせしめては我秦王の迫
て面として辭せしなりといふ人や廉頗がものめ思ふや
らんとほそくは秦の國よりしは趙の國へをさす
しものふかれ蔭頗とあつてはなり支虎たりといふ

まづぐり死にこれ捕者のゆきのがふといふるを我と廉頗と
 我で一定試みかぐり死にぞうとぞ秦の國よりとぞり
 此趙の國を討まづ一竹ぞ私のしゝとめて國家の大事を
 忘らんやとぞしんとて廉頗これとほてきて大に恥し
 らぐり蔭相なりとにけり我大よあやまりゆきとぞとて
 りびとせしむるを二のふりふりてあはれに趙の
 國大よばるなりなり

の政令の

後漢の張衡は光武帝に「忠直の臣なり帝も漢室
中興の明帝なり」と云ふに張衡君の所政處なりと云ふ
しゝわきとて度々母と云ふを云ふなり帝も漢も
いふと云ふのいふが「さうさう」といふと云ふ張衡

はれふに案て禁中へ氣内やと帝儀はあつて
ぬま白馬生来とらひまて服といふ人ともて思ふ
うまひはひふと君とてうまに思ふとらひ賢臣
能者といふやとこれとてふ人のひさう身余と省次君
の乃小忠とぬとばやう

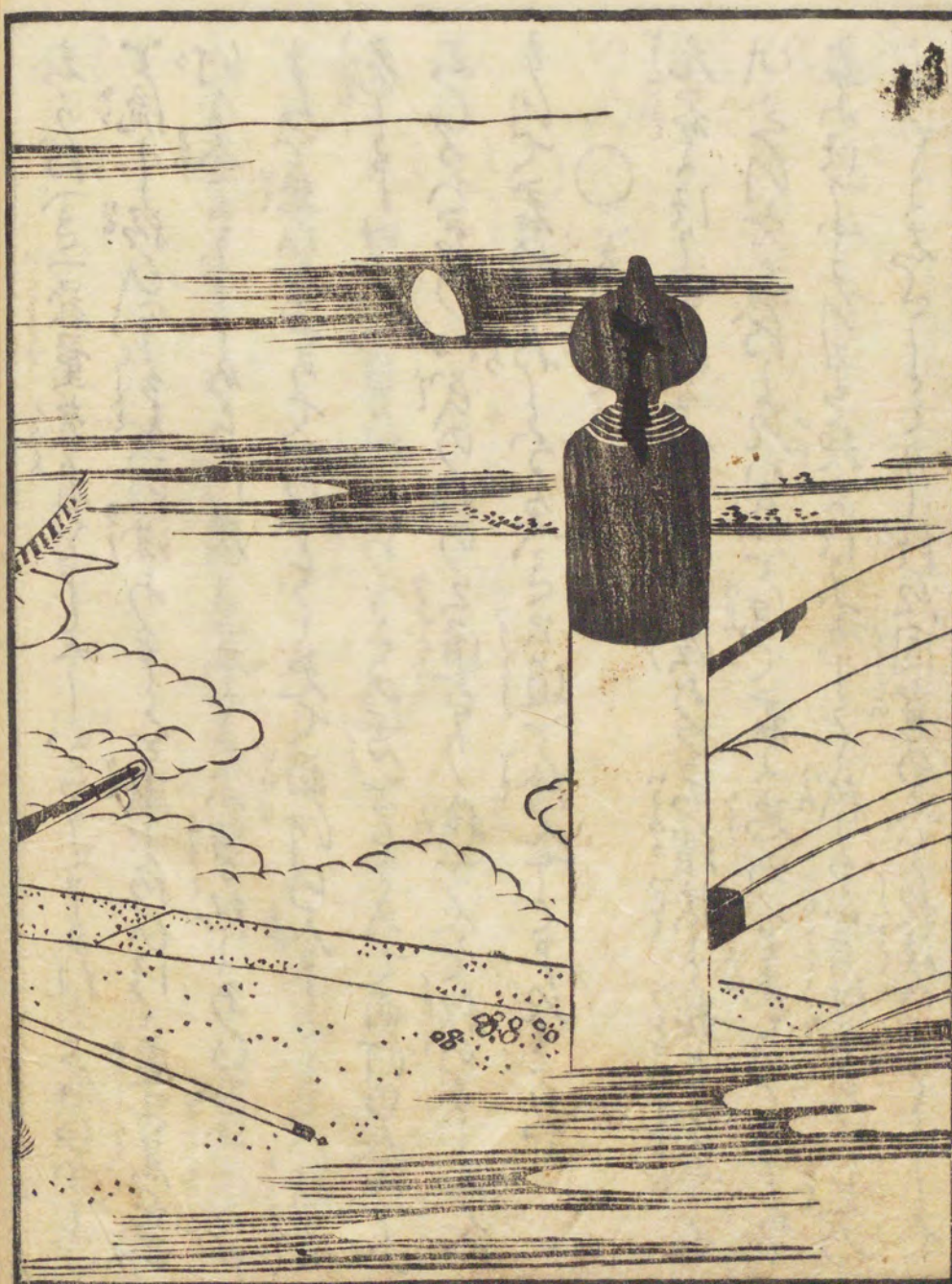
○舅犯

晋の文公は下の舅犯同族ふや西河の令は誰と任
せむ氏と伏ふやと有るれを舅犯とて云虚子と
てはるるをどうと氏と云ふ人ともて文公すう右て
その虚子と云ふと仲あれた者から彼やとのうと舅犯者
てややう君の西河の令ふは彼者をこそ同族とて我
族の仇とてさうと仲あれた事同族を彼とのをよ君の仇と

あつた(さ)云量有者とてうと云ふと云ふれと君はか
と流し給ひと云ふの流あつてと感はぬひは虚子と云ふ西
河の令とてうと云ふ虚子と云ふ舅犯とていふは我や
まらと思ひとてて君とてて西河の令とてと云ふ能者
と云ふとけとて舅犯とていふとてとて西河の令と
と云ふは君の仇と云ふの云道なり我がんと云ふ人を
りて君の仇と云ふと云ふと云道と云ふと云ふと云

○各慶

凡そはふまの人の法のわと云うと云ふと云ふと
けと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
君はふまの人の法のわと云うと云ふと云ふと云ふと
いふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと



繪中德新疏卷之一尾

繪本德行譚卷之二

月
錄

楚莊王

初丁

熊子代駒子代

二

趙居先

記
丁

劉批劉贊

門

孫叔敖

五
丁

周茂才妻

六丁